

令和6（2024）年度 第2回学校運営協議会 議事録

- 1, 日 時 令和6年9月25日（水） 14時30分～16時30分
- 2, 場 所 栃木県那須高等学校 会議室
- 3, 出席者 委員10名、栃木県教育委員会事務局4名、本校職員6名、
コーディネーター2名
- 4, 司 会 本校教頭
- 5, 次 第
 - 1) 開会
 - 2) 会長挨拶
 - 3) 学校長挨拶
 - 4) 委員紹介・出席者紹介（資料 pp.1～2 参照）
 - 5) 議事
 - (1) 学校概況報告
 - ・教頭による学校行事、検定試験合格状況の説明（資料 pp.3～4 参照）
 - ・教務主任による一日体験学習についての説明（資料 pp.5～9 参照）
 - 1 生徒会作成の学校紹介動画視聴
 - (2) 総合的な探究の時間について
 - ・主幹教諭より説明（資料 pp.10～14・追加資料2枚）
 1. 第7回全国小規模サミット参加報告（動画視聴含む）
 2. 那須高祭地域開き「飛び出す！人物図鑑」
 3. 日本教育新聞の掲載について
 4. NHK 宇都宮支局の取材について

[委員からの感想]

- ・小規模校だからこそできることを那須高校で実践してほしい。
- ・人物図鑑をいかにして活かしていくかが大切である。
- ・運営協議会の立ち上げから関わってきたが、人物図鑑を通して全国へ旅立ち、那須高校の魅力を発信できて心からうれしさを感じている。Team 那須高校としての成果があらわれている。
- ・企業として、ドリーム・ナイトのボランティアで那須高校職員や生徒と関係性を持ったことに感謝している。那須高校はエネルギーにあふれている。また、様々なことを共有していく大切さを実感している。
- ・新鮮な驚きと発見である。少子化が進んでいく中で、一日体験学習参加者数が増加していることは那須高校にとって大きな進歩。地域開きに前向きに挑戦し、たくましさを感じる。生徒も教員も楽しみながら、那須高校の魅力をさらに新しいものにしてい

ってもらいたい。

- どのようにコンピテンシーを身につけさせるのか、どのように授業改善していくのが、中学校でも課題となっている。大胆なカリキュラム改革を行ってみても良いのではないか。
- 今の那須高校にいる生徒たちは幸せだと思う。
- 可能性を持った生徒も増えてきているだろうから、どんどん外に出て活躍してほしい。地域と関わりを持つことで魅力がどんどん広がる。
- 可能性がある！那須高校とともに地域が発展する。地域が温かい目で見守る。那須高生の明るい声に元気がもらえる。生徒たちの情熱を感じ取っていききたい。発展し続ける高校であってほしい。
- 町の広報誌で那須高校の取組を紹介している。何を協力してよいかわからない中、コーディネーターに活躍していただき感謝している。
- 3年前から那須高校の先生、生徒を全国小規模校サミットに連れていきかけた。参加した生徒、教員にとっても実りのある経験になったのではないか。小規模校の中でも那須高校は大きい方である。那須高校の成長は、行動力を持って動いている結果。生徒もさまざまなことを理解できるようになっている。観光PRも兼ねて、那須を好きになるストーリー作りを行っていききたい。那須高生も参加できれば、さらなる発展につながるのではないか。
- 今現在行っていることを継続し、アップグレードするために必要なことを考える必要がある。コーディネーターとして、日常に地域とのつながりを持つてくることの重要性を感じた。一人ひとりに個別のかかわりが必要だと感じた。コーディネーターとしてどのような支援ができるか考えていきたい。地域連携での支援だけでなく、自分らしく学校生活を送れるようにするために、さまざまな視点から考えることが必要である。
- 「小規模校が最先端」
なぜ地域と連携しているかなどを生徒が自分ごととして考えられるように、地域が生徒を応援したい。これからの取り組みに期待するとともに、これまでのノウハウをどのように継承していくのが課題。
- 一緒に盛り上げていく学校運営協議会でありたい。
- 人物図鑑掲載の方たちと、生徒とのディスカッションの場を設けたい。
- この会そのものが「人」であり、また、たくさんの思いが集まり種が芽吹いた。これからどうやって花を咲かせるか。力を合わせながら、地域、学校の発展に尽力していきたい。点から線へ。1本ではなく1本でも多くの線を。地域とのつながりは大きな柱の一つであり、他の柱にも良い影響を与えていくと思われる。